

様式第2号(第7条関係)

会議の開催結果

1 会議の名称	令和4年度第1回さいたま市史編さん審議会
2 会議の開催日時	令和4年5月25日(水) 午後3時00分～午後4時30分
3 会議の開催場所	さいたま市北区日進町2-1864-10 J S日進3階 304会議室
4 出席者名	老川 慶喜会長、青木 義脩委員、栗田 尚弥委員、 秋元 千代子委員、山崎 憲人委員、関根 正昌委員、 鈴木 英善委員、藤川 奈美子委員 他 事務局職員
5 欠席者名	重田 正夫委員、黒金 英明委員
6 議題及び公開又は非公開の別	(議題) (1) 市史の判の大きさについて (2) 民俗編の刊行計画について (3) その他 (公開又は非公開の別) 公開
7 非公開の理由	
8 傍聴者の数	0人
9 審議した内容	(1) 市史の判の大きさについて (2) 民俗編の刊行計画について (3) その他(次回の審議会開催日程について)
10 問合せ先	総務局総務部アーカイブズセンター 電話番号 048-871-5821 F A X 048-871-5829
11 その他	

令和4年度 第1回 さいたま市史編さん審議会 次 第

日時：令和4年5月25日（水）15時～

場所：アーカイブズセンター会議室

1 開 会

2 総務部長あいさつ

3 会長選出及び職務代理者の指名

4 報 告

- (1) 令和3年度事業報告について
- (2) さいたま市史編さん専門委員の更新について
- (3) 各専門部会の活動状況について

5 議 題

- (1) 市史の判の大きさについて
- (2) 民俗編の刊行計画について
- (3) その他

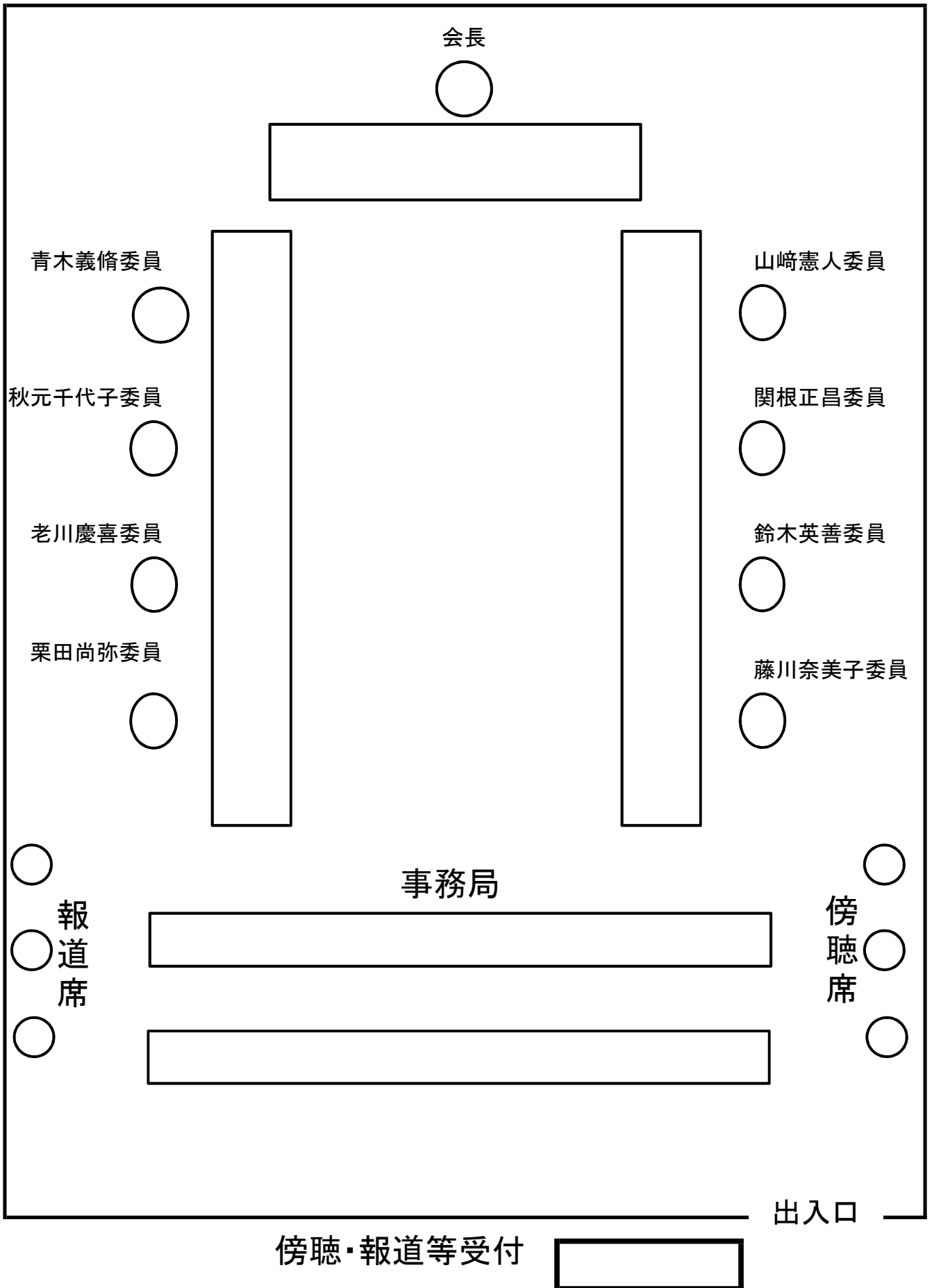
6 閉 会

さいたま市史編さん審議会委員名簿

(区分順、50音順)

	氏名（敬称略）	所属・職等	区分
1	青木 義脩	さいたま市遺跡調査会理事	学識経験者
2	秋元 千代子	元さいたま市立学校長	学識経験者
3	老川 慶喜	立教大学名誉教授	学識経験者
4	栗田 尚弥	國學院大学講師	学識経験者
5	重田 正夫	さいたま市文化財保護審議会委員	学識経験者
6	山崎 憲人	元さいたま市立博物館長	学識経験者
7	黒金 英明	さいたま商工会議所理事・事務局長	関係団体代表者
8	関根 正昌	株式会社埼玉新聞社代表取締役社長	関係団体代表者
9	鈴木 英善	市民公募委員	市民公募
10	藤川 奈美子	埼玉県立文書館公文書・地図センター担当部長	関係行政機関職員

令和4年度 第1回 さいたま市史編さん審議会 席次



令和 3 年度事業報告について

1 審議会の運営

- (1) 第 1 回（7 月 26 日）
 - ・令和 2 年度事業報告について
 - ・さいたま市史編さん専門委員の更新について
 - ・アーカイブズ部会の設置について
 - ・監修について
- (2) 第 2 回（3 月 14 日～3 月 29 日）※書面開催
 - ・令和 4 年度予算及び事業計画について

2 専門部会の運営

- (1) 専門部会の体制 令和 2 年度に引き続き 9 部会を運営（鉄道部会は休止状態）
- (2) 専門部会連絡調整会議
 - ①第 1 回（7 月 16 日）
 - ・令和 2 年度事業報告について
 - ・さいたま市史編さん専門委員の更新について
 - ・各部会の活動状況について
 - ・アーカイブズ部会の設置について
 - ・監修
 - ②第 2 回（3 月 14 日）
 - ・令和 4 年度予算及び事業計画について
 - ・前回及び今後の監修について
 - ・監修

3 「さいたま市史民俗編 I ～社寺の信仰～」の刊行

- (1) 体裁等
A 4 版 260 頁（本文）、1,000 冊作成、頒布価格 2,000 円
- (2) 内容

近代以前から地域の人々の信仰と関わってきた神社及び寺院、講について紹介した。

特に神社に関しては、本市を代表する武蔵一宮氷川神社について、通常、市民が見ることができない「祭祀」に関することを紹介した。

寺院に関しては、主な宗派ごとにいくつかの寺院を対象として、寺の概要、年中行事、檀家との関わりについて明らかにした。

講に関しては、形態を変えながらも連綿と信仰が続いていることを明らかにした。

4 「さいたま市アーカイブズセンター紀要第6号」の刊行

(1) 体裁等

B5版88頁（本文）、500冊作成、頒布価格1,000円

(2) 内容

寄稿（近世部会、民俗部会、自然部会、現代部会）

5 デジタルアーカイブズの構築

HP「アーカイブズセンターギャラリー」の写真資料の更新（12点）

6 歴史資料の収集、整理、保存、活用

(1) 保存期間が満了した行政文書の収集、整理（81箱 ※現在整理中）

(2) 旧村役場文書のデジタル化（6,000コマ）

(3) 旧市史等刊行物デジタル化（旧市史2冊）

(4) 写真資料デジタル化（ネガフィルム20,000点）

(5) 映像資料のデジタル化（VHS100本）

さいたま市史編さん専門委員の更新について

(敬称略)

専門部会	氏名	任期
原始・古代	青木 義脩	審議会に準ずる
原始・古代	柿沼 幹夫	R3.6.8 ~ R5.6.7
原始・古代	宮瀧 交二	R3.6.8 ~ R5.6.7
原始・古代	水村 孝行	R4.4.17 ~ R6.4.16
原始・古代	笹森 紀己子	R4.4.17 ~ R6.4.16
中世	有元 修一	R3.6.8 ~ R5.6.7
中世	菊池 紳一	R3.8.7 ~ R5.8.6
近世	重田 正夫	審議会に準ずる
近世	岩田 みゆき	R3.6.8 ~ R5.6.7
近世	橋本 直子	R3.8.7 ~ R5.8.6
近代	老川 慶喜	審議会に準ずる
近代	高嶋 修一	R3.6.8 ~ R5.6.7
近代	岡部 桂史	R3.6.8 ~ R5.6.7
近代	大矢 由美子	R3.6.8 ~ R5.6.7
現代	栗田 尚弥	審議会に準ずる
現代	大島 英夫	R3.6.8 ~ R5.6.7
現代	沖川 伸夫	R3.6.8 ~ R5.6.7
民俗	飯塚 好	R3.6.8 ~ R5.6.7
民俗	岡本 一雄	R3.6.8 ~ R5.6.7
民俗	板垣 時夫	R3.8.7 ~ R5.8.6
民俗	大島 純子	R3.8.7 ~ R5.8.6
自然(植物)	清水 誠	R3.6.8 ~ R5.6.7
自然(気象)	裏川 一雄	R3.6.8 ~ R5.6.7
自然(地質)	高原 勇夫	R3.6.8 ~ R5.6.7
自然(昆虫)	林 正美	R3.8.7 ~ R5.8.6
アーカイブズ	佐藤 勝巳	R3.5.10 ~ R5.5.9

原始・古代部会

1 部会の構成（令和4年5月2日現在）

審議会委員1名、専門委員4名、調査員21名

2 刊行計画案

- 「旧石器～縄文」、「弥生～古墳」、「奈良～平安」の3分冊とする。

3 活動状況

- R3.8.24（火）全体会議 ・各時代（グループ）の現状と計画について確認
- R3.1.23（日）2冊目G会議（書面開催） ・2冊目の目次案と執筆者について確認
- R4.2.17（木）全体会議 ・1冊目の執筆原稿について検討
- R4.3.25（金）3冊目G会議 ・3冊目の目次案と執筆者について確認

4 今後の活動予定

- 1冊目「旧石器～縄文」の校正と刊行（令和5年3月刊行予定）
- 2冊目、3冊目の執筆に向けた調査
- 過去実施された遺跡調査の整理

5 課題等

- 用語等の統一
- 原始古代部会と中世部会の記述部分の調整

中世部会

1 部会の構成（令和4年5月2日現在）

専門委員2名、調査員7名

2 刊行計画案

- 2分冊を予定。
- 時代で区切るなら「平安末期～南北朝」、「室町～戦国」で仮検討

3 活動状況

R3. 10. 16（土）会議

- ・ 刊行計画の確認
- ・ 担当分担の確認
- ・ 目次案の作成について検討

R3. 11. 12（金）会議

- ・ 部会の進め方について事務局との打合せ

R4. 4. 30（土）会議

- ・ 有元部会長、菊池委員、新井調査員の3者により中世2冊の各対象時代を検討。

4 今後の活動予定

- 旧4市の市史で使用されている史料を確認
- 目次案を検討し、令和4年度中にはある程度形にする
- 埼玉県立嵐山史跡の博物館の協力を得て、「埼玉県板石塔婆調査報告書」作成の際に提出した旧4市のカードの複写

5 課題等

- 全体構成について、原始・古代部会及び近世部会との調整
- 県が保有する調査資料の利用
- 金石文、城館跡等の執筆に関する検討
- 伝承の取扱い

近世部会

- 1 部会の構成（令和4年5月2日現在）
審議会委員1名、専門委員2名、調査員6名
- 2 刊行計画案
○ 4冊刊行予定（通史3分冊、テーマ編1冊（「絵図編」））
- 3 活動状況

R3. 7. 18（日）会議 古文書調査	・ 令和3年度の活動について ・ 木内家文書調査
R3. 12. 26（日）会議	・ これまでの部会における検討内容についての確認 ・ 目次案の検討
R4. 2. 27（日）会議 古文書調査	・ 古文書の調査計画等について検討 ・ 木内家文書調査
- 4 今後の活動予定
 - 令和4年5月か6月ごろに会議・調査実施予定。
 - 目次案の検討
 - 古文書調査（木内家文書（当面）、阿部家の藩政資料）
 - 現地調査（緑区三室）
- 5 課題等
 - 限られた時間で膨大な史料の調査
 - 中断している房総半島岩槻藩関係史料調査
 - 人権問題の取扱い
 - コラム・索引・年表について

近代部会

1 部会の構成（令和4年5月2日現在）

近代部会 審議会委員1名、専門委員3名、調査員3名

2 刊行計画案

- 近代編2冊（特別編は保留中）

3 活動状況

R3.	4.	23	（金）近代部会会議	・ 今後の体制と活動内容等について
R3.	6.	9	（水）近代部会会議	・ 令和3年度の活動等について
R3.	8.	6	（金）現地調査	・ コクーンシティ（片倉工業）現地調査
R3.	10.	6	（水）近代部会会議	・ 片倉工業に関する調査研究報告ほか
R4.	1.	12	（水）近代部会会議	・ 片倉工業に関する調査研究報告ほか
R4.	4.	3	（水）近代部会会議	・ 片倉工業に関する調査研究報告ほか

4 今後の活動予定

- 令和4年6月27日（月）会議開催予定
- 旧市史の記述内容の確認及び評価
- 関係資料調査
- 旧市史編さん室史料調査
- コクーン新都心開発についての調査研究に加え、他の旧市域についても焦点を当ててみていく

5 課題等

- 市保管資料の保管場所が分散していること
- 市保管資料以外の資料の把握（民間企業が保有する資料等）
- 刊行が先のため、中間目標の設定（紀要等で報告していく）

現代部会

1 部会の構成（令和4年5月2日現在）

現代部会 審議会委員1名、専門委員2名、調査員2名

2 刊行計画案

- 現代編2冊（特別編は保留中）

3 活動状況

- R3. 11. 8（月）現代部会会議（リモート）
 - ・通史編のプロットの検討、今後の進め方について
- R4. 4. 29（金）現代部会会議
 - ・今後の作業内容等について検討
- R4. 8月上旬～中旬 現代部会開催予定

4 今後の活動予定

- 項目立ての検討
- 旧4市の新聞目録不足分の作成
- 新聞記事からの調査項目・テーマの抽出
- 関係資料調査
- 旧市史編さん室史料調査
- プランゲ文庫の資料調査・集成

5 課題等

- 市保管資料の保管場所が分散していること
- 市保管資料以外の資料の把握（民間企業が保有する資料等）
- 刊行が先のため、中間目標の設定（紀要等で報告していく）
- 参考となる旧4市の新聞記事について、作成がされていない空白の期間がある

自然部会

1 部会の構成（令和4年5月2日現在）

専門委員4名

※ 植物、昆虫、地質、地形、気象のグループに分かれて活動

植物グループ 専門委員1名

昆虫グループ 専門委員1名

地質グループ 専門委員1名

気象グループ 専門委員1名

2 刊行計画

- 「気象、地形、地質」、「植物」、「昆虫類」の3分冊。
- 平成30年度に「気象、地形、地質」、令和元年度に「植物編」、令和2年度に「昆虫類」を刊行

3 活動状況

- ・ 紀要第6号に地質の専門委員が執筆

4 今後の活動予定

—

5 課題等

- 採集した資料（標本資料など）の管理、電子データの管理

民俗部会

1 部会の構成（令和4年5月1日現在）

専門委員4名、調査員4名

2 刊行計画案

- 令和3年度に1冊目「社寺の信仰」を刊行。以降、2冊目「年中行事、祭り、民俗芸能」の刊行を予定。「人の一生、生産生業、衣食住」については、形態を変えて発刊予定。

3 活動状況

- | | |
|-------------------------|-------------------------------|
| R3. 5. 21 (金) 編集会議 | ・ 1冊目の原稿内容について協議（入稿前） |
| R3. 8. 27 (金) 2・3冊目G会議 | ・ 2冊目と3冊目に関する状況の確認と目次案等について協議 |
| R3. 11. 11 (木) 編集会議 | ・ 1冊目の原稿内容について協議（初校後） |
| R3. 11. 26 (金) 2・3冊目G会議 | ・ 3冊目に関する項目等の検討 |
| R4. 2. 14 (月) 2・3冊目G会議 | ・ 2冊目と3冊目の刊行について協議 |
| R4. 3. 19 (土) 2・3冊目G会議 | ・ 3冊目の刊行形態について協議 |

4 今後の活動計画

- 2冊目以降に関する調査、執筆内容の整理

5 課題等

- 2冊目以降に関する調査、細かい内容の検討
- コロナ禍にあって調査対象の行事や民俗芸能が行われておらず、また、地域の方への聞き取りも難しいため調査が思うように進んでいない。

アーカイブズ部会

1 部会の構成（令和4年5月2日現在）

専門委員 1 名、調査員 2 名

※令和3年5月に設立

2 活動状況

R3. 5. 17（月）会議

・アーカイブズ部会の活動内容について

R3. 6. 2（水）会議

・今後の活動のあり方についての協議

・アーカイブズセンター所蔵の資・史料について

R3. 8. 26（木）会議

・現状把握と問題点の確認

R3. 12. 23（木）会議

・優先的な取り組み内容の検討（収蔵資料の散逸や滅失を防ぐための対策をまずは行っていく）

R4. 1. 28（金）視察

・戸田市アーカイブズ・センター及び旧与野公民館視察

3 今後の活動計画

- 収蔵資料の散逸や滅失を防ぐための対策の実施
- アーカイブズセンター所蔵の各資・史料について、今後の閲覧等の体制の整備に向けた検討
- アーカイブズセンターと他の類縁機関との機能分担を踏まえた、今後の資・史資料の収集方針等の検討

4 課題等

- さいたま市史の編さんに用いた（調査で収集した）資料の保存・管理

「さいたま市史」の判の大きさの統一について

1 協議いただきたい点

今後刊行する「さいたま市史」の判の大きさについて、A4判とB5判のいずれが適切か

2 「さいたま市史」がB5判を基本とすることとなった経緯（判の大きさを中心に）

- (1) 旧来の市史の反省点として、次の点を確認した。
 - ・旧来の市史は分厚くて読む意欲が削がれる。
 - ・旧来の市史は持ち運びづらく、読む場所が限定される（図書館や自宅の机等）。
- (2) 次に、さいたま市史編さんの目的を確認した。
 - ・さいたま市史編さん基本方針に定める市史編さんの目的は「市民等が地域の歴史や特性について理解を深めることで「さいたま市への関心と愛着」をもてるようにすること」である。
- (3) 「さいたま市史」では上記(1)及び(2)を踏まえて、これからの市史は、多くの方に手に取って、読んでもらえるように、次の点について配慮することとした。
 - ・分野や時代ごとに1冊にまとめず、分冊する。
 - ・例えば、鞆の中に入れて電車の中でも読めるよう、B5判を基本とする（読む場所を選ばない）。
- (4) 写真や図判が多い市史は、判の大きさを統一するよりも読みやすさ、見やすさを優先し、例外としてA4判とした。
 - ・「さいたま市史自然編」（3冊）
 - ・「さいたま市史民俗編」（3冊）

3 「さいたま市史」の判の大きさ及び他の政令指定都市の判の大きさ

参考資料をご参照ください。

本市と同様に政令指定都市移行後に市史編さんの実績があるのは14市（編さん中を含む）です。そのうち、判の大きさを統一しているのは6市で、統一していないのは8市です。

4 今後刊行する市史をA4判へ統一することのメリット及びデメリット

【メリット】

- ・図書館や自宅の本棚に並べた際に書籍の高さが統一され、シリーズものとして認知しやすくなる。
- ・どの分野、どの時代の市史であっても写真や図判は掲載されることから、A4判へ統一することで今後刊行する市史も、より読みやすく、見やすくなる。

【デメリット】

- ・最初に刊行した「さいたま市史鉄道編」のみB5判となり、市史刊行が全て完了しても書籍の高さは統一されない（鉄道編は現時点で残部1,000冊程度あり、加えてB5判をA4判に組み替えることは予算措置が必要となり現実的ではない）。

- ・ B 5 判と比較した場合、持ち運びがしづらく、読む場所が限定される。

5 今後刊行する市史を原則としてB 5 判とすることのメリット及びデメリット

【メリット】

- ・ A 4 判と比較した場合、B 5 判は持ち運びがしやすく、読む場所を限定しない。
- ・ 旧来の市史の反省点及び市史編さんの目的の主旨を踏まえている。

【デメリット】

- ・ 書籍の高さが不揃いであり、シリーズものとして認知しにくい。
- ・ A 4 判と比較すると、写真等は小さく掲載することとなり、伝えられる情報量も少なくなる。

「さいたま市史」の判の大きさ（これまでの実績及び今後の予定）

年度	市史	B 5 判	A 4 判
平成 2 9 年度	鉄道編	○	
平成 3 0 年度	自然編（気象・地形・地質）		○
令和元年度	自然編（植物）		○
令和 2 年度	自然編（昆虫類）		○
令和 3 年度	民俗編Ⅰ（社寺と信仰）		○
令和 4 年度予定	通史編（原始・古代Ⅰ）	○	
令和 5 年度予定	民俗編Ⅱ（民俗芸能等）		○
令和 6 年度予定	通史編（原始・古代Ⅱ）	○	
令和 7 年度予定	民俗編Ⅲ（生産生業等）		○
令和 8 年度予定	通史編（原始・古代Ⅲ）	○	
令和 9 年度～予定	通史編（中世、近世、近代、現代）	○	

他の政令指定都市の状況

本市と同様に政令指定都市移行後に市史編さんの実績があるのは 1 4 市（編さん中を含む）です。うち、判の大きさを統一しているのは 6 市、統一していないのは 8 市です。

なお、表中の市名の下にある年は、政令指定都市移行年を表します。

（政令指定都市移行順）

No	市	市史	内容	巻数	A 5 判	B 5 判	A 4 判
1	横浜市 1956 年	横浜市史Ⅱ	昭和～高度経済成長期	6	○		
			資料編等	9	○		
2	名古屋市 1956 年	新修名古屋市史	通史	7		○	
			自然編、民俗編等	3			○
			資料編	11		○	
3	京都市 1956 年	京都市制史	市政の形成・発展等	3	○		
			資料編	2	○		
4	大阪市 1956 年	新修大阪市史	本文編	10	○		
			史料編	12	○		
5	神戸市 1956 年	新修神戸市史	歴史編、産業経済編等	11	○		
6	北九州市 1963 年	新修北九州市史	市政、経済、文化等	4		○	
			写真集	1			○
			資料集	1			○
7	札幌市 1972 年	新札幌市史	通史	6		○	
			史料	2		○	
			統計、年表等	2			○
8	川崎市	川崎市史	通史編	5	○		

	1972年		資料編	5	○		
			別編民俗	1	○		
9	福岡市 1972年	新修福岡市史	資料編（考古）	3			○
			資料編（中世～近現代）	8	○		
			民俗編	2	○		
			特別編（福岡城等）	4			○
10	広島市 1980年	広島新史	各論編	8	○		
			資料編1・2・4、年表	4	○		
			資料編3（地図資料）	1			○
11	仙台市 1989年	仙台市史	通史編	9	○		
			資料編、年表等	14	○		
			特別編（自然、民俗等）	9		○	
12	千葉市 1992年	千葉市史	史料編	9		○	
			絵図編	2			○
13	浜松市 2007年	浜松市史	新編史料編	7	○		
			通史	2	○		
14	相模原市 2010年	相模原市史	別編（戦後年表等）	1			○
			資料編（近代）	1	○		
			文化遺産編	1			○
			現代テーマ編	1	○		
			考古編、民俗編、自然編	3			○
			現代史料編	1	○		
			現代図録編	1			○

民俗編の刊行計画について

1 民俗編の刊行計画

民俗編は3分冊し、令和3年度、5年度、7年度の刊行を予定していましたが、次のとおり変更します。

- ・ 2冊目の刊行を令和5年度から7年度へ変更。
- ・ 3冊目については、民俗部会及び事務局にて検討。

変更前			変更後		
刊行年度	分冊	内容	刊行年度	分冊	内容
令和3年度	民俗編Ⅰ	社寺と信仰	令和3年度	民俗編Ⅰ	社寺と信仰
令和5年度	民俗編Ⅱ	祭り 民俗芸能、 年中行事			
令和7年度	民俗編Ⅲ	生産生業、 人の一生、 交通交易	令和7年度	民俗編Ⅱ	祭り、 民俗芸能、 年中行事

2 刊行計画変更の理由

(1) 民俗編Ⅱ

- ・ コロナ禍にあつて、調査対象となる民俗芸能等の活動が中止となったり、話者から調査を断られたりする状況が続いています。
- ・ そのため、民俗編Ⅱを執筆するための調査が終わっていません。
- ・ 十分な調査と研究に基づいて執筆するには、令和5年度の刊行では時間が足りないため、刊行年度を令和7年度へ変更するものです。

(2) 民俗編Ⅲ

- ・ 民俗部会及び事務局にて検討中です。